

論文審査の要旨

報告番号	総研第 484 号	学位申請者	田口 宏樹
審査委員	主査	浅川 明弘	学位 博士 (医学・歯学・学術)
	副査	堀内 正久	副査 橋口 照人
	副査	郡山 千早	副査 東 美智代

***Helicobacter pylori* eradication improves the quality of life regardless of the treatment outcome: A multicenter prospective cohort study**

(*Helicobacter pylori* 除菌治療は治療結果にかかわらず生活の質を改善する

—多施設共同前方視的コホート研究—)

胃食道逆流症や機能性ディスぺプシアなどの上腹部症状を有する *Helicobacter pylori* (以下, Hp) 感染者に対する除菌療法は生活の質 (quality of life: QOL) を改善するという報告はあるが、上腹部症状の有無にかかわらず、Hp 除菌療法が QOL 改善につながるかどうかについては報告がない。そこで学位申請者らは、上腹部症状の有無にかかわらず、Hp 除菌療法が QOL を改善するかどうかについて明らかにすることと、Hp 除菌療法における QOL 改善の因子を明らかにすることを目的に、多施設において SF-8™ (The 8-item Short-Form Health Survey) による QOL 評価を除菌前後にて行い、結果の解析を行った。なお、Hp 除菌判定については感度、特異度ともに最も高いとされる ¹³C-UBT 法 (尿素呼気試験) にて行った。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

- 1) Hp 除菌の成功失敗にかかわらず、Hp 除菌前後で QOL スコア [身体的 QOL (PCS : physical component summary)、精神的 QOL (MCS : mental component summary)] は改善した。
- 2) 上腹部症状については除菌成功群において改善した。しかしながら、除菌治療前の上腹部症状の有無は QOL 改善の因子ではなかった。上腹部症状を有する患者の MCS は除菌治療後に改善した。
- 3) QOL (PCS、MCS) 改善の因子は除菌治療前の QOL (PCS、MCS) が平均以下であることであった。
- 4) 副次的評価項目として、Hp 除菌の成功失敗にかかわらず Hp IgG 抗体は除菌治療後に低下していた。

Hp IgG 抗体価は実際の Hp 菌体数に影響されるが、除菌の成功失敗にかかわらず Hp IgG 抗体価は除菌後に低下していた。Hp 抗体価と関連の強い IL-6 をはじめとする精神的不安定さを惹起する炎症性サイトカインが Hp 除菌により低下し、結果として QOL (PCS、MCS) が改善した可能性が示唆された。

本研究は、Hp 除菌治療は除菌結果にかかわらず QOL を改善するということを明らかにした研究である。これまでの研究が、上腹部症状を有する Hp 感染患者かつ除菌成功者を対象としていたが、本研究においては Hp 感染者全てが対象であり、除菌の成功失敗にかかわらず QOL が改善することが明らかになった。今後、本研究は QOL 改善の一因として学位申請者らが考察している各種サイトカインの測定の研究につながっていく点で、非常に興味深い。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。